

資料を読み解き、自らの考えを深める子どもの育成をめざして II

—Thinking Chart を活用した小学校第6学年社会科の実践を通して—

山下 博典

本研究では、小学校第6学年の社会科、特に歴史学習において、資料を読み解き、自らの考えを深める子どもの育成をめざした。そのための具体的な手だてとして、事象間の関連づけや思考の深化を促進するThinking Chartの手法を年表に取り入れた「Thinking Chart年表」を開発した。

これにより、歴史学習が単なる知識の習得のみにとどまらず、子どもたち自らが個々の歴史的な事実・事象相互の関連を把握する中で、各時代の歴史的な事象の背景や前後の時代相を認識した上で思考を深めたりすることができる考えた。

第1章 歴史学習における子どもたちの思考を深めるために

第1節 言語化の活動を取り入れた歴史学習

昨年度の研究では、資料を読み解き、自らの考えを深める社会科学学習を進めるために、言語化の3つのステップを設定した。言語化の3つのステップは以下の通りである。

【言語化① - イメージの明確化】

資料に含まれるイメージ的な情報、今まで学習したことや経験したことなど、思考過程の中で形が無い情報を可視化し、明確にすること。

【言語化② - 事象の関連づけ】

書き表した言語情報の意味に着目し、思考過程の中で個々の事象を関連づけて、意味にまとまりのある集合体（概念的知識）をつくり出すこと。

【言語化③ - 思考の深化】

複数の概念的知識をもとにして、学習内容を総合的に見ることによって、社会的な事象の背景や本質に迫りながら、筋道立てた深い思考を行うこと。

資料に含まれる事実を「書き表す」ことは、子どもたちが資料の読み取りを正確に、詳細に行う活動時に有効な手だてとなった。また、読み取った事実・事象相互の関連の把握や筋道立てた深い思考の促進を図るために開発した「Thinking Chart(以下 Tチャート)」は、子どもたちが学習したことの関連を把握しながら、その背景にまで思考を深めることに有効な手だてとなった。

一方、諸調査の結果から歴史学習における学力実態を分析すると、歴史的な事実を正しく認識できるようにするための指導や、社会的な事象の意味を考え、確かな判断ができるようにするための指導を充実する必要があると指摘されている。

歴史学習では、資料を確実に読み取り、個別の事実・事象相互の関連を把握し、歴史的な事実・事象の背景にまで思考を深めたり、前後の時代相を認識した上で思考を深めたりすることが大切である。

第2節 研究の構造・枠組み

言語化の3つのステップの活動を歴史学習に取り入れることにより、複数の歴史的な事実・事象相互を関連づけながら、先人の工夫や努力をした姿に共感したり、自分の生活とのかかわりを考えたりすることまで思考を深めることができると考えた。(図1) その際、空間軸での拡がりをとらえることに加えて、時間軸も考慮することで、出来事の前後関係や因果関係を把握しやすくなり、歴史的な事実・事象について考えをより深めることができると考えた。そこで、昨年度開発したTチャートの手法を年表に取り入れたTチャート年表を活用して実践を行った。(図2)

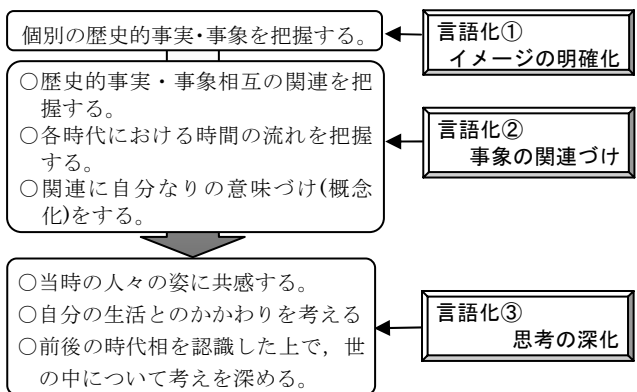


図1 歴史学習における思考の深化の過程と言語化の3つのステップ

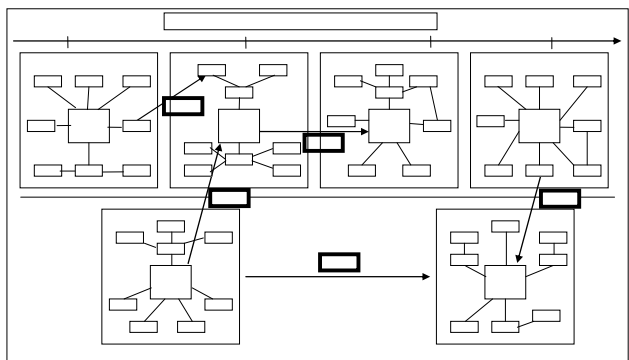


図2 Tチャート年表 モデル図

第2章 実践授業での様子

第1節 「源頼朝と鎌倉幕府」での実践

資料を印刷した学習プリントを配布し、気づいたことを書き出すことにより、子どもたちは多くの情報を集めることができた。また、それらの情報の中からキーワードを選び出し、1時間の学習のまとめをすることにより、子どもたちは歴史的事実・事象相互のつながりを意識しながら、学習をまとめることができた。ただ、キーワードを的確に選ぶことができない子どもも見られた。



図3 Tチャート年表を作成している様子

Tチャート年表の活動では、キーワードを付箋紙に書き出し、Tチャートを作成することにより、気づかなかった事象同士のつながりを見いだすことができた。またTチャートを年表上に配置することにより、出来事が起こった時間の前後を把握することができ、出来事の起こった順に学習をまとめることができた。

しかし、学習をまとめることはできたが、自分の考えを表すは十分ではなかった。

第2節 「徳川家光と江戸幕府」での実践

学習を進めていく上で、キーワードについては、グループでの交流を増やしたり、児童が選んだキーワードを指導者が紹介しながら、「共通のキーワード」として取り入れたりするようにした。その結果、多くの子どもは必要なキーワードを含めながら考えることができた。

学習したことから自分の考えを表すことができるように、考えをまとめるための文型を提示した。作成したTチャート年表を活用し、3点に絞りながら考えを深めることにより、世の中の様子を明確にとらえることができ、江戸時代を概観した考えを表すことができた。

第3節 「明治維新をつくりあげた人々」での実践

Tチャート年表の作成後、Tチャート年表を提示しながら考えを交流する活動を取り入れた。発表している内容の根拠となる部分をTチャート年表で示しながら交流することにより、分かりやすく発表することができるとともに、多様な考え方があることに気づくことができた。

そして、交流したことをもとに、自分の考えを再構成することにより、さらなる思考の深化を促すことができた。

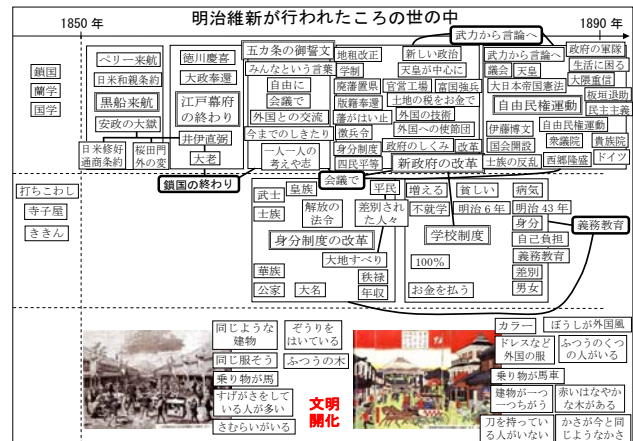


図4 児童が作成した「明治維新が行われたころの世の中」についてのTチャート年表

第4節 実践授業を終えて

子どもたちの意識の変容について把握するためにアンケート調査を行ったところ、【言語化①—イメージの明確化】については資料を詳細に見ることができる良さや資料を見る力がついたという声が聞かれた。【言語化②—事象の関連づけ】では、Tチャートの作成により関連を見だしやすかったという声が聞かれた。【言語化③—思考の深化】については、Tチャート年表を作成することで、深く考えるようになったという声が聞かれた。

指導者は、子どもたちの学習状況を見とることができたり、子どもたちが文章を書くことへの抵抗がなくなったりする効果を感じたようである。

第3章 自ら考えを深める子どもを育成するために

第1節 言語化の活動が歴史学習に及ぼす効果

言語化の3つのステップを歴史学習に取り入れることにより、資料を詳細に読み取り、読み取った情報を活用しながら関連を見だし、思考を深めることができた。その際、Tチャート年表は、学習内容の関連づけや個別の思考の深化、発表・交流活動における資料の役割を果たした。

第2節 一人一人の思考の深化を促すために

思考の深化を促進できるようにするために行った交流活動であるが、他の人の発表内容を的確に記録できず、考えを再構成するときに生かすことができなかつた子どももみられた。学習プリントの工夫など記録方法を改善する必要があった。

Tチャートは、社会科に限らず、国語科の文章の読み取りや、理科での実験のまとめなど、他の教科等にも活用できるものである。また、資料からの情報を書き出し操作する活動は、学力に課題のある子どもやLD等支援の必要な子どもにとっても有効な手だてであると考えられる。